

2008年度
近畿YOC審判講習会
参加者報告書

-
- 【日 時】 2008年8月7日（水）～8月8日（木）
【場 所】 大阪大学吹田キャンパス体育館
【大 会】 第46回近畿地区国立大学体育大会
【参加者】 （京都からの講習生）片山 雄一郎 ・ 井上 京

1. 報告者		片山 雄一郎		
2. 従事した試合				
	回戦	Aチーム	VS	Bチーム
	主審	副審		講師
①	女子1回戦	兵庫教育大学	VS	和歌山大学
	片山	別府氏(奈良)		塚本氏(兵庫)
②	男子2回戦	滋賀大学	VS	大阪大学
	片山	中田氏(和歌山)		塚本氏(兵庫)
3. 感想				
<p>今回、このような講習会に参加できたことを光栄に思っており、指導していただいた講師の方々には大変感謝しています。講習会ということで、自分が今持っている力をコート上に全て出せる(表現できる)ようにし、その上で講評を受けたいと思っていました。ただ、そのために無理に普段以上のパフォーマンスをするのではなく、いつも通りの審判をそのまま表現するように心掛けました。最近の私の自分自身の課題として、バイオレーション、特にトラヴェリングの基準を一定にし、それを同じ基準で一試合通して徹底して吹ききるということを掲げてきました。本講習会でもその課題を常に意識して判定をするように考えました。</p> <p>第1試合目、第2試合目ともに塚本圭右氏に講師をしていただき大変よい勉強になったとともに大きな刺激になりました。両試合を通して、バイオレーションに限らず判定を一試合徹底して行うことを講評として受けました。これは、この講習会に限らず普段の審判活動の中でも指摘されていることでもあり、自分の徹底することに対する甘さを痛感しました。さらに、得点を認めるジェスチャーについてもしっかりと手首を返すように行うようにという指摘を受けました。普段の審判で何気なくしているジェスチャーが、新しい環境で新たに見られることによって基本とはかけ離れていることを認識し、もう一度マニュアルの徹底をしなければならぬと思いました。</p> <p>二日間の講習を受けて一番感じたのは、何に対しても「徹底する」ことが大切であるということでした。判定に関してはもちろんのこと、基本的なジェスチャーを含め全てのことに對して徹底した態度をとるといふことの重要性を再確認しました。そのためには、判定に對してはより広く深いプレイの技術の理解・ルール理解、さらにマニュアルや他の審判から学ぶことの必要性を感じています。上述のことを含めこの講習会を通して学んだことを今後の審判活動に大いに活かしていきたいと思ひます。最後に、今回の講習会で他府県から参加し大きな刺激を与えてくれた同年代の審判員、そして丁寧に指導していただいた講師の方々には大変感謝いたします。</p>				

1. 報告者	井上 京			
2. 従事した試合				
	回戦	Aチーム	VS	Bチーム
	主審	副審		講師
①	女子1回戦	京都教育大学	VS	奈良女子大学
	井上	渡壁氏 (兵庫)		隅谷氏 (奈良)
3. 感想	<p>この度は近畿 YOC に推薦していただきありがとうございます。</p> <p>序盤から力の差がはっきりとしたゲームだったので現象としては判定しやすいものが多く、また出だしに相手審判と同様、手の使いの判定ができていたように思います。細かな動きを心がけ、自分のエリアを丁寧に見ようと意識をしましたが、後半になるにしたがって運動量が減っているのを自分で感じました。</p> <p>講師からの反省の中でも、特にリードオフィシャルの時の動きに工夫が必要と指摘されました。今は悪い位置から普通に判定しているように見えるけど、カットイン方向や角度によってもっと細かい動きで納得させる必要がある。またプレゼンテーションをはっきり大きく、落ち着いて見せる事で説得力も増すと指摘を受けました。</p> <p>久しぶりの講習会でしたが、自身の中でのこだわりをもっと明確に見出し、一試合を通じてアピールする意識がもっと必要だったように思います。公認としての経験も長く様々なゲームを与えていただいているので、もっと次の段階での反省・指摘をいただけるようモチベーションの向上を図っていく必要があります。</p>			